

丸子中央病院

MARUKO CENTRAL HOSPITAL

病院概要

2026年度版



日本医療機能評価機構
認定第JC2026号



認定 第56号
認定期間 2026.4.1-2031.3.31
健診施設機能評価認定施設

丸子中央病院の理念

本院は、質の高い医療・介護の提供を通じて、地域のしあわせ創りに貢献します。

丸子中央病院の方針

1. 患者さんの権利の尊重と療養環境の充実
2. 医療従事者の育成とチーム医療の推進
3. 健全な病院経営
4. 地域おこしへの貢献

丸子中央病院職員の倫理規定

1. 職員はすべての患者さんに対して常に平等に、温かく接しなければならない。
2. 職員は、患者さんに十分な情報を提供したうえで、患者さんの知る権利、自己決定の権利を尊重しなければならない。
3. 職員は守秘義務を厳守し、個人情報の保護に努めなければならない。
4. 職員は、自己研鑽に努め、医学の進歩と発展に貢献し、安全で信頼される医療の提供に努めなければならない。
5. 職員は、医療法人丸山会丸子中央病院職員としての自覚を持ち、お互いを尊重し、協力して病院の健全な運営に努めなければならない。

丸子中央病院患者さんの権利憲章

丸子中央病院は、患者さんの利益を守るためにこの権利憲章を制定します。

本院の職員は、この権利憲章を守り、患者さんの医療への主体的な参加を支援いたします。

1. 患者さんは、人としての尊厳を尊重される権利があります。
2. 患者さんは、平等な医療を受ける権利があります。
3. 患者さんは、納得できるまで説明を受ける権利があります。
4. 患者さんは、診療録の開示を求める権利があります。
5. 患者さんは、自ら受ける医療を選択し、あるいは拒否する権利があります。
6. 患者さんは、担当医以外の医師の考え（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
7. 患者さんは、プライバシーを守られる権利があります。



社会医療法人 丸山会

まるやま かずとし
理事長 丸山 和敏

当院は、丸山大司が昭和34年に小県郡丸子町上丸子（現上田市上丸子）に丸山医院を開業したことに始まります。昭和40年に丸子中央病院へと発展し、その後の増築を経て昭和60年には総合病院として認可を受け、330床の「丸子中央総合病院」として地域医療を担ってまいりました。

平成25年8月には上田市中丸子へ新築移転し、病院名を「丸子中央病院」に戻すとともに、創設時の原点に立ち返り、地域に根ざした医療の提供に努めております。

また、少子高齢化の進展に対応するため、病児保育センターの開設や介護医療院の整備を行い、医療と介護の両面から地域を支える体制を構築しております。さらに、日本医療機能評価機構による認定取得や、アメリカ心臓協会公認のBLS/ACLSコースの実施などを通じ、医療の質の向上にも継続的に取り組んでおります。

地域とのつながりも当院の大切な役割の一つです。市民公開講座やロビーコンサートだけでなく、院内で約180種類の薔薇が咲く5月には薔薇祭り、8月には花火大会を開催し、11月から2月にはイルミネーションを点灯し、病院と地域の皆様との交流の機会を大切にしております。

開院以来65年以上にわたり、地域の皆様に支えられながら歩んでまいりました。これからも「地域のしあわせ創り」という理念のもと、医療・介護サービスのさらなる充実を図り、地域社会に貢献してまいります。

今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



社会医療法人 丸山会
丸子中央病院

さとう ゆきとし
病院長 佐藤 之俊

病院長を拝命して一年が経過いたしました。この間、地域の皆様ならびに職員に支えられ、歩んでこられましたことに心より感謝申し上げます。

少子高齢化が進むなか、当院に求められるのは、高齢者救急への対応と、地域のかかりつけ医機能の充実です。当院ではこれらの体制整備を進め、慢性疾患を有する高齢者をはじめ、継続的な医療を必要とする方々を地域で支える「治しと支える医療」に取り組んでおります。

信州は平均寿命の長さで全国的に評価されていますが、健康寿命は必ずしも上位ではありません。健康寿命の延伸は、日々の生活の質を高め、安心して暮らし続ける基盤となります。その実現に向け、当院では、さまざまな取り組みを行っています。例えば、加齢に伴う心身機能の低下に対しては、栄養・フレイル外来において身体、栄養、認知、社会の各側面を総合的に評価し、適切な予防・改善プランを提案しています。これにより、将来的な要介護の予防につなげています。

また、フットケア外来やネイルケア外来では、足病変の治療とケアを通じて生活の質の向上を支援しています。

現在、デジタル化やAIの進展により社会は大きく変化していますが、医療の中心にあるのは常に「人」です。患者さん一人ひとりに寄り添い、笑顔と挨拶を大切にしながら信頼関係を築くことこそが、地域に根差した病院の本質であると考えております。

開院以来65年以上の歴史を礎に、当院は今後も進化を続けていきます。人口の都市集中が進むなかであっても、丸子・武石・依田窪地域、さらに上田地域の医療機関や診療所、大学病院・基幹病院との連携を一層強化し、地域医療を支えてまいります。そして、住民の皆様とともに「しあわせ創り」を実現していく所存です。

今後ともご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくようお願い申し上げます。



社会医療法人 丸山会
丸子中央病院

かつやま つとむ
名誉院長 勝山 努

丸子中央病院は周囲を山に囲まれた中山間地に位置する典型的な「地域の病院」（コミュニティーホスピタル）です。「地域の病院」の役割は、医療・介護を通じて地域の人々の健康と生活を守るだけでなく、病気で悩んでいる人、落ち込んでいる人がいれば励まし、元気づけ、一緒に生き甲斐を探し、地域の人々とともに地域のしあわせ創りに貢献する点にあります。その意味では、当院は「病気を診る病院」というより「人を見る病院」を目指していると言ってもよいでしょう。

今、中山間地では、人口減少と過疎化、少子高齢化が驚くほどのスピードで進行しています。実は、人口は減少しているのに、世帯数は増えているのです。なぜでしょうか。その主な原因は核家族化の進行とともに独居の高齢者が増え続けているからに他なりません。このような社会では、必要とする医療・介護サービスはご家族ごとに、患者さんごとに非常に異なっています。

「人を見る」ことをモットーとする当院にとって、患者さんとご家族の日常生活の維持、回復に対するお手伝いは、疾病の治療のためにも重要な課題であり、患者さんの健康状態のみならず、生活環境、家族環境にも十分配慮して、治療計画、退院計画を立てさせていただいています。特に適応される医療保険と介護保険との連携に重きを置く必要があり、医療から介護にわたり幅広く担当できる人材の育成に全力を挙げてきました。

丸子中央病院と社会医療法人丸山会は、多種多様な人材とともに、病院、介護医療院、透析クリニック、さらに関連の特別養護老人ホームや他医療機関との絆など、持てる資源の全てを活用し、地域のしあわせ創りに今後とも邁進します。地域の皆様の変わらぬご指導、ご鞭撻を切にお願い申し上げます。



沿革

- 昭和 34 年 丸山大司、小県郡丸子町に丸山医院開業
昭和 40 年 「医療法人丸山会 丸子中央病院」に新築移転
61 床、5つの診療科を設置（第 1 期新築工事）
昭和 41 年 救急指定病院の認定を受ける
昭和 42 年 85 床に増床（第 2 期新築工事）
昭和 44 年 151 床に増床（第 3 期新築工事）
昭和 46 年 人工透析を開始
昭和 47 年 更生医療機関に指定
特定医療法人に認定
昭和 53 年 病床数 267 床へ増床（第 4 期新築工事）
昭和 60 年 総合病院の認可を受け「丸子中央総合病院」となる
昭和 61 年 330 床に増床
「上田透析クリニック」開設
平成 8 年 「そよ風訪問看護ステーション」開設
平成 10 年 丸山和敏、第二代病院長に就任
平成 15 年 丸山大司理事長が丸山会 会長に就任
丸山和敏が理事長・院長を併任
平成 25 年 勝山努、第三代病院長就任
旧カネボウ丸子工場跡地へ新築移転 297 床
「丸子中央病院」に改称
平成 27 年 公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価 3rdG : Ver.1.0 認定取得
財団法人日本病院会日本人間ドック学会による人間ドック・健診施設機能評価認定取得
平成 28 年 地域包括ケア病棟開設
介護療養型医療施設に愛称「ケアあおぞら」と命名
平成 29 年 企業主導型保育園「あったかステーション わくわく」開設
平成 30 年 DPC 対象病院として包括請求業務を開始
丸子中央病院介護医療院「ケアあおぞら」を開設（許可病床数 199 床）
長野県発達障がい診療地域連携病院として始動
平成 31 年 「病児保育センター」・「医療と介護の総合相談ステーション」開設
令和 2 年 発熱外来を設置 院内 PCR 検査開始
令和 4 年 正面玄関エリアに「ローズガーデン」オープン
令和 6 年 「ケア大宮 花の丘」が介護医療院に転換
令和 7 年 勝山努病院長が名誉院長に就任
佐藤之俊、第四代病院長就任
令和 8 年 長野県知事より「社会医療法人」の認可を取得
地域包括医療病棟開設

丸子中央病院 シンボルマーク



丸子中央病院に携わるひとりひとりが地域の皆さまのニーズに柔軟にお応えしていく姿勢・情熱を、躍動感のある赤色の楕円をベースにしたデザインで表現しています。
地域の発展を医療・福祉から支え、地域と共に成長しつづける思いを楕円の中央上の円でシンボリックに表しています。
人と人が支え合うイメージを丸子中央病院のアルファベット頭文字の「M」に見立てています。

名称 社会医療法人丸山会 丸子中央病院
開設者 理事長 丸山和敏
所在地 〒386-0405
長野県上田市中丸子 1 7 7 1 - 1
電話 0268-42-1111 (代表)
F A X 0268-42-1112 (代表)
敷地面積 27,561 m²
建築延面積 20,297 m²
建物 地上 9 階建 耐火鉄骨造り

(2026年5月1日現在)



急性期から在宅までの

継続的な医療・介護の提供

法人内で連携を持ち、患者さん・利用者さん
一人一人を継続的に支援しています



丸子中央病院

一般病棟 (50床)

急な病気になった場合にまず入院するのが一般病棟です。病状が最も重い時期、あるいは不安定な時期の治療を行います。

地域包括医療病棟 (49床)

主に高齢者救急に対応する病棟です。早期からリハビリ、栄養管理を行い、生活機能の維持・向上を図りながら住み慣れたご自宅等へ安心して戻れるよう支援します。

地域包括ケア病棟 (50床)

病状が回復に向かっても、状況が入院前と異なる場合は、家に帰る準備が必要です。リハビリテーションを行ったり、社会資源の活用等の調整を行い、安心して退院後の生活に移れるよう支援します。

医療療養病棟 (50床)

病状が安定しても、長期間にわたる医療処置が必要な方が入院する病棟です。処置などをしながら退院して自宅で過ごすことを目指します。



介護医療院

「ケアあおぞら」(定員:97名)

病状が安定したものの家での生活が難しく、長期療養が必要な方に御利用いただく施設です。生活の場としての機能を持ちあわせており、居住性に配慮した施設で状態に応じて自立した日常生活を支援いたします。

そよ風訪問看護ステーション

医師・看護師・リハビリテーションスタッフがチームとなり、病院退院後の在宅療養に必要な看護や介護のお手伝いをいたします。



発達外来

長野県から委託を受け2018年より上小圏域の発達障がい診療地域連携病院として始動しました。

地域で医療及び療育の支援を受けやすくするため、関係職種知識・技術の向上なども担っています。

医師・看護師・作業療法士・言語聴覚士・公認心理士など多職種でお子さんにとってより良い支援につながるようサポートしています。



ひまわり会

院内ボランティア「ひまわり会」が外来で患者さんをアテンドします。丸山医院開院当初から働いていたOB・OGが所属しており、受診までの間、安心して過ごすことができます。

介護老人保健施設

長野県 ■ 御所苑

東京都 ■ ケア新小岩

■ ケア東久留米

〒386-0033 長野県上田市御所 666

電話 0268-22-2222

〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩 2-1-12

電話 03-5671-6003

〒203-0052 東京都東久留米市幸町 3-11-10

電話 042-479-2600

介護医療院

長野県 ■ 丸子中央病院「ケアあおぞら」

埼玉県 ■ ケア大宮 花の丘

〒386-0405 長野県上田市中丸子 1771-1

電話 0268-42-1111

〒331-0045 埼玉県さいたま市西区内野本郷 975-5

電話 048-620-2400

診療所

■ 上田透析クリニック
(血液透析モニター 49台)

〒386-0033 長野県上田市御所 674

電話 0268-27-3006



丸子中央病院概要

2025 年度 病床利用率・平均在院日数

	許可病床数	稼働病床数	病床稼働率(%)	平均在院日数(日)
一般病棟	99	99	90.4	16
地域包括ケア病棟	50	50	87.8	
療養病棟	50	50	93.4	
介護医療院		97		

2025 年度実績

新入院患者数	2,879 名	救急患者数	9,311 名 (うち入院 1,400 名)
延入院患者数	65,745 名 (1 日平均 180 名)	救急車搬送数	1,612 名
延外来患者数	127,712 名 (1 日平均 350 名)	紹介患者数	4,831 名
初診患者数	11,969 名	紹介率 (日本病院会 QI プロジェクト)	44.4%
		逆紹介数	4,661 名
		逆紹介率 (日本病院会 QI プロジェクト)	40.9%

職員数 599 名 (常勤 499 名、非常勤 100 名 (常勤換算)) (2026 年 4 月現在)

	職種総数	常勤 職員数	非常勤 (常勤換算)
医師	38	30	8
歯科医師	2	2	0
看護要員 合計	205.3	164	41.3
保健師	6.7	6	0.7
看護師	126	97	29
准看護師	62.5	55	7.5
看護補助者	10.1	6	4.1
薬剤師	12.6	11	1.6
臨床検査技師	18	12	6
診療放射線技師	12.5	12	0.5
管理栄養士	9	9	0

	職種総数	常勤 職員数	非常勤 (常勤換算)
リハビリ部門 合計	50.4	48	2.4
理学療法士	27.3	27	0.3
作業療法士	15.3	14	1.3
言語聴覚士	6.8	6	0.8
公認心理師	1	1	0
診療情報管理士	3	3	0
臨床工学技士	14	14	0
医療ソーシャルワーカー	5	5	0
介護支援専門員	7	7	0
介護福祉士・介護職員	86.1	75	11.1
事務部門	104.7	90	14.7
その他職種	31.4	17	14.4
職員総数	599	499	100

医療安全推進者 17 名 (専任・兼任)

感染管理担当者 5 名 (専任・兼任)

標榜診療科 (2026年5月1日現在)

内科	呼吸器内科	循環器内科	消化器内科	糖尿病内科
腎臓内科	腎臓内科(人工透析)	神経内科	心療内科	内視鏡内科
外科	呼吸器外科	心臓血管外科	整形外科	脳神経外科
形成外科	精神科	膠原病リウマチ科	小児科	皮膚科
泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	リハビリテーション科	放射線科
臨床検査科	救急科	歯科	歯科口腔外科	麻酔科(大畑 淳)

施設基準・承認事項 (2026年5月1日現在)

基本診療料

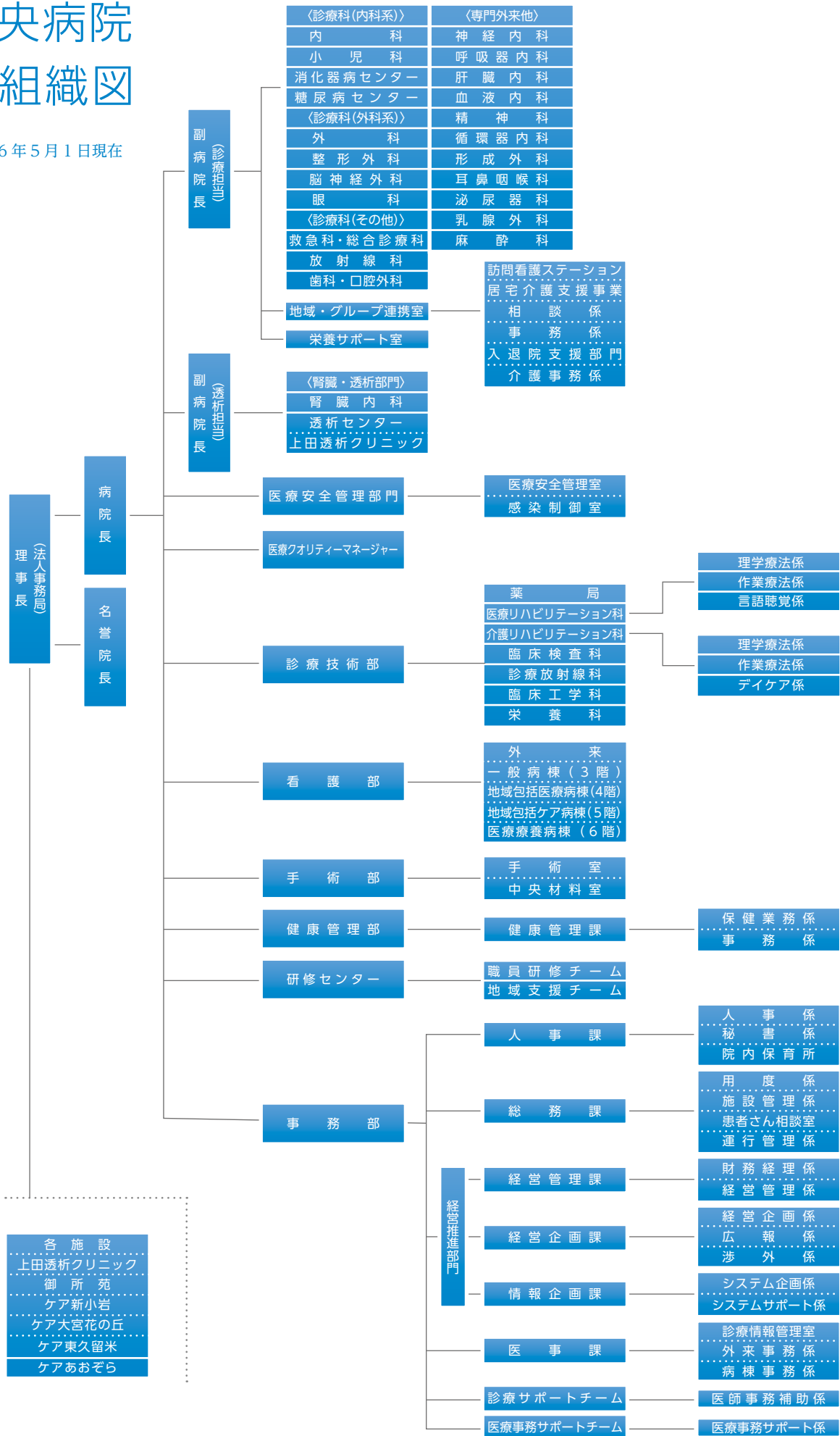
- ・情報通信機器を用いた診療に係る基準
- ・機能強化加算
- ・医療 DX 推進体制整備加算
- ・初診料(歯科)の注1に掲げる基準
- ・歯科外来診療医療安全対策加算1
- ・歯科外来診療感染対策加算1
- ・一般病棟入院基本料
- ・療養病棟入院基本料
- ・救急医療管理加算
- ・超急性期脳卒中加算
- ・診療録管理体制加算2
- ・医師事務作業補助体制加算1
- ・急性期看護補助体制加算
- ・療養環境加算
- ・療養病棟療養環境加算1
- ・リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算
- ・栄養サポートチーム加算
- ・医療安全対策加算2
- ・感染対策向上加算1
- ・患者サポート体制充実加算
- ・後発医薬品使用体制加算1
- ・病棟薬剤業務実施加算1
- ・データ提出加算
- ・入退院支援加算
- ・認知症ケア加算
- ・せん妄ハイリスク患者ケア加算
- ・精神疾患診療体制加算
- ・地域包括医療病棟入院料
- ・地域包括ケア病棟入院料1
- ・入院時食事療養/生活療養(1)

特掲診療料

- ・糖尿病合併症管理料
- ・がん疼痛緩和指導管理料
- ・糖尿病透析予防指導管理料
- ・二次性骨折予防継続管理料1
- ・二次性骨折予防継続管理料2
- ・二次性骨折予防継続管理料3
- ・下肢創傷処置管理料
- ・院内トリアージ実施料
- ・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算
- ・外来腫瘍化学療法診療料2
- ・別添1の「第14の2」の1の(1)に規定する在宅療養支援病院
- ・がん治療連携指導料
- ・こころの連携指導料(II)
- ・薬剤管理指導料
- ・医療機器安全管理料1
- ・歯科治療時医療管理料
- ・在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料
- ・検体検査管理加算(I)
- ・検体検査管理加算(IV)
- ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・神経学的検査
- ・コンタクトレンズ検査料1
- ・小児食物アレルギー負荷検査
- ・画像診断管理加算1
- ・画像診断管理加算2
- ・CT撮影及びMRI撮影
- ・冠動脈CT撮影加算
- ・心臓MRI撮影加算
- ・無菌製剤処理料
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料(1)
- ・運動器リハビリテーション料(1)
- ・呼吸器リハビリテーション料(1)
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・歯科口腔リハビリテーション料2
- ・エタノールの局所注入(甲状腺)
- ・エタノールの局所注入(副甲状腺)
- ・人工腎臓
- ・導入期加算1
- ・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- ・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- ・ストーマ合併症加算
- ・口腔粘膜処置
- ・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算
- ・歯科技工士連携加算2
- ・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
- ・緊急整備固定加算及び緊急挿入加算
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・胃瘻造設術(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術)
- ・輸血管理料II
- ・輸血適正使用加算
- ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- ・レーザー機器加算
- ・麻酔管理料(1)
- ・周術期薬剤管理加算
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料
- ・看護職員処遇改善評価料42
- ・外来・在宅ベースアップ評価料(1)
- ・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(1)
- ・入院ベースアップ評価料51

丸子中央病院 組織図

部署別 2026年5月1日現在



役員

2026年5月1日現在

丸山会	理事長	丸山和敏 (まるやま かずとし)
	常務理事	長崎信之 (ながさき のぶゆき)
	相談役	田中克典 (たなか かつのり)
	法人副事務局長	櫻井宏幸 (さくらい ひろゆき)
丸子中央病院	病院長	佐藤之俊 (さとう ゆきとし)
	名誉院長	勝山努 (かつやま つとむ)
	副病院長	松澤賢治 (まつざわ けんじ)
	透析担当副病院長	都筑重利 (つづき しげとし)
	特別顧問	岡元和文 (おかもと かずふみ)
	顧問	松本あつ子 (まつもと あつこ)

診療部

医局	局長	平野賢 (ひらの けん)
内科系診療部	部長	橋倉泰彦 (はしくら やすひこ)
内科	部長	渡邊光久 (わたなべ みつひさ)
	部長	松澤賢治 (まつざわ けんじ)
		加藤裕子 (かとう ゆうこ)
		小山潤 (こやま じゅん)
		中島恒夫 (なかじま つねお)
		沖山葉子 (おきやま ようこ)
		石川守 (いしかわ まもる)
		樋口雅隆 (ひぐち まさたか)
		鈴木彰 (すずき あきら)
		伊古美文隆 (いこみ ふみたか)
		中嶋太郎 (なかじま たろう)
小児科	部長	齊間陽子 (さいま ようこ)
皮膚科	部長	松倉節子 (まつくら せつこ)
循環器内科	部長	平野賢 (ひらの けん)
外科	部長	佐藤之俊 (さとう ゆきとし)
救急科・総合診療科	部長	岡元和文 (おかもと かずふみ)
麻酔科	部長	大畑淳 (おおはた じゅん)
		岡元和文 (おかもと かずふみ)
消化器病センター	センター長	松澤賢治 (まつざわ けんじ)
整形外科	部長	久保田豊 (くぼた ゆたか)
		深井翔介 (ふかい しょうすけ)
		占部裕太 (うらべ ゆうた)
		安島桃子 (あじま ももこ)
眼科	部長	野原雅彦 (のほら まさひこ)
脳神経外科	部長	塚田利幸 (つかだ としゆき)
放射線科	部長	星野博信 (ほしの ひろのぶ)
歯科	部長	山田哲男 (やまだ てつお)
		輿水大比古 (こしみず ひろひこ)
手術部	部長	岡元和文 (おかもと かずふみ)
透析センター	センター長	橋倉泰彦 (はしくら やすひこ)

各部門

地域・グループ連携室長	高末真知子 (たかすえ まちこ)
看護部長	岡部由美 (おかべ ゆみ)
医療安全管理室長	小山潤 (こやま じゅん)
健康管理部長	橋倉泰彦 (はしくら やすひこ)
研修センター長	橋倉泰彦 (はしくら やすひこ)
事務部長	櫻井宏幸 (さくらい ひろゆき)
事務部次長	池内淳子 (いけうち じゅんこ)

つながる地域とのきずな ぬくもりある医療の提供

働く職員の多くがこの丸子地域で育ち、幼いころから当院を受診し、地域と共に歩んできました。病院にお越しいただく患者さんの中にも、職員の家族やご近所さんが多く、会話の中には慣れ親しんだぬくもりを感じとれます。今日も病院の中では、地域のみなさんによる写真・作品展示や、コンサートなどが行われています。私たちの役割は、患者さんはもちろん、その先にあるご家族、そして地域住民にとっても“しあわせ”を感じられる環境を提供することです。医療・介護を通じ「この病院でしかできないこと」を探しています。そのために、住民参加の地域医療づくり、そして何より患者さんの意思を尊重できる人材育成を大切に考えています。



院内施設紹介



人間ドック

健康的な生活を送っていただくために
お一人、お一人に合わせた丁寧な
説明を心がけています。健診後は、
空港のゆったりしたラウンジをイ
メージした、9階ドック専用ラウン
ジでフランス料理の山田シェフによ
るお食事を提供します。



医療と介護の 総合相談ステーション

「地域医療連携室」「入退院支援室」
「医療福祉相談室」「訪問看護ステー
ション」「訪問リハビリテーション」
「居宅介護支援センター」を1か所
に集約し、地域住民の方々や患者
さん、利用者さん、ご家族等から
の医療・介護に関するご相談を一
体的にお受けしています。

9F 人間ドック

8F 介護医療院 ケアあおぞら

7F 介護医療院 ケアあおぞら

6F 医療療養病棟

5F 地域包括ケア病棟

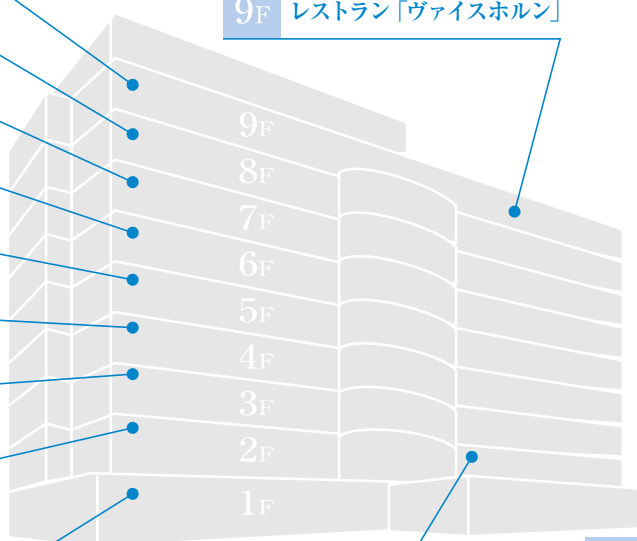
4F 地域包括医療病棟、手術室

3F 一般病棟 (内科系)、透析センター

2F リハビリテーション科、デイケア
発達外来

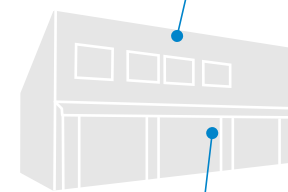
1F 医療と介護の総合相談ステーション
外来、消化器病センター、
臨床検査科、放射線科、
ER、薬剤部、栄養科、医事課、売店

9F レストラン「ヴァイスホルン」



2F 小児科
病児保育センター

2F 研修センター



1F 丸子中央病院保育園
あったかステーション
わくわく

透析センター



患者さんに安心・快適な環境で治療を受けて
頂けるよう、最新の患者監視装置を備え、一
人一人のスペースも充実しています。外来での
臨時透析や緊急透析にも対応し、関連施設の
上田透析クリニックはもちろん、地域の透析医
療機関とも連携しています。

消化器病センター



特殊光観察(NBI)可能な光源システム
を導入し、電子内視鏡スコープを用い
た上部消化管内視鏡、大腸内視鏡による
観察・精査(拡大内視鏡、超音波内視
鏡)が可能です。また内視鏡を用いた
治療(EMR、ESD、ERCPなど)を行っ
ており、必要に応じてカプセル内視鏡
を用いた小腸検査も施行しています。

あったかステーションわくわく



内閣府の企業主導型保育事業の制度を利用した
保育園です。職員や、地域のみなさんがご利用
いただけます。地域で安心してお父さん、
お母さんが働き続けられるように、仕事と子育て
の両立を支援します。



シミュレーション教育を中心とした研修体制 ～地域を支えるひとになる～

当院は「研修センター」を設置するとともに、シミュレーション教育の場を院内外に提供し、地域の医療水準向上をはかっています。

シミュレーション教育は、「知っている」と「できる」との間に存在するギャップを埋める効果が期待されている教育方法です。

看護学生、新人看護師だけでなく、再就職やベテラン職員、医師までがシミュレーション研修に参加し、さらには理学療法士、事務職員などの各職種に対しても「急変対応研修」を実施しています。また、導入しているオンラインテキストにより「世界標準」を目指している点は当院の特徴と考えています。

「成人教育理論」に基づいたシミュレーション研修を行うために、米国の指導者研修会等を受講・修了したスタッフを中心となってシミュレーション教育指導者育成を開催し、指導者としてのスキルアップを行っています。



スポーツサポート活動

リハビリテーション科では2018年よりU-15バスケットボールクラブチームのスポーツサポート活動に取り組んでいます。成長期やオーバーユースにより練習や試合に参加できない選手を無くすことを目的に活動しています。具体的にはストレッチ指導やケアトレーニング、子供達への身体の教育を2回/月行っています。ここ数年でチームスタッフや親御さんの意識も高まり個別での相談件数も増えてきています。



PUSHコース

丸子中央病院は、大阪ライフサポート協会と日本心臓財団がすすめる「PUSHプロジェクト」に参加しています。地域の皆さんには、胸骨圧迫+AEDだけの誰でもできる心肺蘇生の研修会を地元の小中学校、警察署、一般企業などで開催しています。



産後の親子ぬくもりケア ママの輪

当院の産後ケアサポート「ママの輪」では、理学療法士の専門性を活かし、産後女性の体のケアを行っています。体幹機能の回復を目的としたエクササイズ指導に加え、抱っこや授乳などの育児動作を確認し、腰痛や肩こりの予防・軽減にも対応します。理学療法士と助産師による個別相談も承っており、マンツーマンで一人おひとりに寄り添いながら、安心して育児を楽しめるようサポートします。



駅よりバスをご利用の方

- 北陸新幹線・しなの鉄道線 上田駅お城口バス停、
またはしなの鉄道線 大屋駅バス停より
千曲バス 鹿教湯線 (丸子、鹿教湯方面行き) 乗車
またはJRバス関東 長久保線 (長久保行き) 乗車

※当院正面入口に「中央病院前」バス停があります。

※朝、夜1便ずつ、「中央病院前」に停車しないバスもございますのでご注意ください。

お車をご利用の方

- しなの鉄道 大屋駅から5km (車で約10分)
- 上田菅平ICから浅間サンライン、大屋駅前を通り13km (車で約25分)
- 東部湯の丸ICから県道81号線丸子東部インター線を通り11km (車で約25分)



〒386-0405 長野県上田市中丸子1771-1

電話 0268-42-1111 (代表) FAX 0268-42-1112

丸子中央病院
ホームページ
<https://maruko-hp.jp>

